国策の制定と未来

黒田インターナショナル
黒田　毅

正義を抱くことは、世界と対峙することである。隷属は、虚言に従うことの誤りで有り、自己の独立は、唯一自己を有する正しい選択である。

現状認識は、世界における計画における未来が存在する。日本国は自己外交の欠如と優れた経済と自衛隊という基盤を持つ。これらが自己の独立と外交における新しい現実を模索することはその決意において必ず可能なのである。

政治の脆弱性は、霞ヶ関の官僚の依存する政治企画と分析の脆弱性で有り、新たな政治環境は情報の収集と分析、政治企画の立案が、現実に付し、要求されるため、その新しい組織環境を民間と行政において必要とされる。政治は、必ずその重要性において全てに優れるため、アメリカ合衆国の豊かな政治基盤が彼らの現実を支えるものであるという正しい認識は、自己における新たな政治環境の構築を可能とするのである。

他方においては自国が有する全てのソフト、ハード資産の活用における独自外交への転換が存在する。自由主義は、新世界秩序を自己とするため、明確な自己の理念と施策の制定は、新たな外交における世界における自己プレゼンスの構築が、東洋というルーツとともに、大きな世界への影響を行使できるのである。

これらは政治の大きな自己プレゼンスにおける現実の転換を可能とするため、これらは合意と明確な判断を基盤とした新たな国家への転換の実現を有するのである。

これらは未来に予測される大きな変化への対応を独立性と共にその世界現実への参加と自己プレゼンスの構築を実現することを提案するものである。

これらは従属性から独立性への転換をその可能な限り自己現実において行うことで有り、変化は、自己の行動と発言において、日本国が有する豊かな資産を基盤に、独自理念の実現を可能とすることができるのである。